

一丸となって命を守る

総合防災訓練

10月31日に野原地区・海上自衛隊舞鶴教育隊・舞鶴国際ふ頭・大波上集会所の4会場を中心に総合防災訓練を実施。市が主催し、海上自衛隊と府の共催で、合わせて20機関・団体が参加し防災への意識を高めるとともに関係機関の連携を深めました。

訓練は若狹湾内断層を震源とするマグニチュード6.9の地震で土砂災害が発生し、一部集落が孤立したと想定。護衛艦「ひゅうが」を拠点に京都府警、国土交通省、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、京都市消防局のヘリコプター6機が発着するなど大規模な訓練を展開しました。

野原地区では地震による津波も想定

し、防災行政無線、自動起動ラジオで情報伝達した後には地元消防団や警察が協力して避難誘導を行い、孤立住民を巡視艇や護衛艦、水難救済会の船艇で輸送する訓練を行いました。教育隊では土砂災害による倒壊家屋と事故車両から要救助者を救出する訓練、ヘリコプターでの物資輸送訓練などを実施しました。国際ふ頭ではガントリークレーンを使ったコンテナ搭載訓練やトラック協会と連携した支援物資輸送訓練、ひゅうがを拠点とした航空機運用訓練のほか、海に流された人を救出する救急搬送訓練を実施。大波上集会所では、自主防災組織が避難所運営訓練を実施しました。

《危機管理・防災課》

①ガントリークレーンで護衛艦「ひゅうが」へコンテナを搭載 ②支援物資を運ぶ海上自衛隊員 ③市の防災倉庫へ支援物資を輸送する京都府トラック協会の車両 ④ヘリコプターの誘導をする海上自衛隊員 ⑤護衛艦「ひゅうが」へ着艦する京都府警のヘリコプター ⑥飛行する国土交通省のヘリコプター ⑦誘導員の指示で着艦する海上保安庁のヘリコプター ⑧ヘリコプターで海に流された負傷者を救出する海上自衛隊員 ⑨土砂災害による負傷者の輸送を行う陸上自衛隊ヘリコプター ⑩輸血用の血液を輸送する京都市消防局ヘリコプター ⑪災害か所を上空から確認するドローン ⑫巡視艇に乗り込み避難する野原住民 ⑬避難者を移送するため護衛艦へ向かう漁船 ⑭避難所運営について講演する京都府災害派遣福祉チーム（京都 DWAT） ⑮段ボールヘッドを組み立てる避難所運営訓練参加者 ⑯倒壊家屋を切断し要救助者を救出する陸上自衛隊員 ⑰事故車両を切断し要救助者を救出する消防職員 ⑱はしご車で高層建物から避難者を救出 ⑲負傷者の手当てを行い救急車へ搬送 ⑳ドローンを操縦する市職員

